

# イエスを「道」として捉えること、メルキゼデクの祭司職、幕の裂け目、そして神への道

この論考は、ヨム・キプールの成就の全容を、イエスの贖罪の業、幕の裂け目、イエスが「道」であること、メルキゼデクの祭司職（パンとぶどう酒を含む）、聖霊の交わり、聖餐、そして信者の神殿としての役割という観点から統合的に論じています。そして、これらの要素が聖餐と神への接近にどのように影響するかを、聖書のみに基づいて考察しています。

## 1. 旧約聖書におけるヨム・キプール

レビ記 16 章、レビ記 23 章 26-32 節、民数記 29 章 7-11 節に詳述されているヨム・キプールは、贖罪の日であり、イスラエルの犠牲制度の頂点に位置づけられ、幕屋と民を清めて神との契約関係を回復する日である。

- 大祭司：大祭司（アロンまたは後継者）は、年に一度、血を持って幕の奥にある至聖所に入り、自分自身とイスラエルのために贖罪の供え物を捧げます（レビ記 16:2-6、16:11-14）。彼の立ち入りは制限されており、彼自身の罪深さゆえに、彼自身のために罪の供え物を捧げる必要があります（レビ記 16:11）。
- 犠牲：祭司の罪のために雄牛が、民の罪のために山羊が犠牲にされ、贖罪のために血が贖罪所に振りかけられる（レビ記 16:11、16:15-16）。
- 身代わりのヤギ：大祭司がイスラエルの罪を告白した後、2 番目のヤギがその罪を荒野に運び、罪の除去を象徴する（レビ記 16:20-22）。
- 香：大祭司は香を焚き、至聖所で神の栄光から身を守るために煙の雲を作り出し、死を免れる（レビ記 16:12-13）。香は祈りを象徴する（詩篇 141:2、「わたしの祈りが、あなたの御前で香のように数えられますように」）。
- 清め：血は幕屋、祭壇、そして人々を罪の汚れから清め、神の臨在が残るようにします（レビ

記 16:16-19、16:30)。

- 告白：大祭司が贖罪の山羊に対して告白することで、イスラエルの罪が移される（レビ記 16:21）。
- 休息と苦行：イスラエル人は安息日を守り、労働を控え、自らを苦しめる（おそらく断食）ことで、謙遜と神の慈悲への依存を反映する（レビ記 16:29-31、レビ記 23:27-32）。
- 和解：血が振りかけられた贖罪所は、神がイスラエルと出会う場所である（レビ記 16:14、出エジプト記 25:22）が、そこへ立ち入ることができるのは大祭司に限られている。
- 集団的および個人的範囲：贖罪は、全会衆と個人の罪を対象とする（レビ記 16:17、16:30）。
- 荒野：スケープゴートが荒涼とした場所に追放されることで罪が取り除かれる（レビ記 16:22）。

聖所と至聖所を隔てる幕は、神の聖性と人間の罪深さとの間の障壁を象徴しており（レビ記 16:2）、立ち入りが制限されていること、そして毎年繰り返す必要のある古い契約の儀式が一時的なものであることを強調している（レビ記 16:34）。

## 2. イエスによるヨム・キプールの成就

新約聖書、特にヘブライ人への手紙は、イエスの死、復活、昇天をヨム・キプールの究極の成就として提示し、その一時的な地上の儀式を永遠の天上の現実へと変容させている。

- メルキゼデクの位階における大祭司：
  - イエスは、メルキゼデクの位に連なる、永遠にして罪のない大祭司であり（ヘブライ人への手紙 4:14、5:6、7:17、7:24-25）、レビ族の祭司職よりも優れています。自分自身のために贖罪を必要としたアロン（レビ記 16:11）や、死によって祭司職が一時的なものとなったアロン（ヘブライ人への手紙 7:23）とは異なり、イエスは「常に生きて執り成しをしてくださる」（ヘブライ人への手紙 7:25）のです。イエスの祭司職は、メルキゼデクの祭司職（ヘブライ人への手紙 7:3、「日の始まりも命の終わりもない」）に似ており、永遠で完全なものです（ヘブライ人への手紙 7:11-28）。
  - 彼は、地上の幕屋ではなく、天の聖所に、ご自身の血をもって入れられ（ヘブライ人への手紙 9:24、9:12）、大祭司の役割を果たされた（レビ記 16:2-3）。
- 犠牲とスケープゴート：

- イエスの十字架上の死は、究極の罪の贖い（ヘブライ人への手紙 9:26、「彼は一度限り現れ、…ご自身をいけにえとしてささげることによって罪を取り除くために現れた」）であり、贖罪のいけにえ（ペトロの手紙一 2:24、「彼は自ら、私たちの罪をその身に負って十字架にかかられた」、イザヤ書 53:6、「主は、私たちすべての罪を彼に負わせた」）です。エルサレムの外で流された彼の血（ヨハネによる福音書 19:17、ヘブライ人への手紙 13:12）は、ヨム・キプールの年ごとのいけにえ（レビ記 16:15-22）とは異なり、永久に罪を贖い（ヘブライ人への手紙 10:10）、罪を取り除きます。
  - 彼の犠牲は「香しい供え物」（エフェソの信徒への手紙 5:2）であり、ヨム・キプールの心地よい香り（レビ記 1:9）に匹敵する。
- 祈りとしての香：
    - イエスの地上での祈り、特に大祭司としての祈り（ヨハネ 17:9-20）と、天における絶え間ない執り成し（ヘブライ 7:25、ローマ 8:34）は、香の雲（レビ記 16:12-13）を成就します。信者の祈りは、イエスを通して香のように立ち昇ります（黙示録 5:8、「香で満たされた金の鉢、それは聖徒たちの祈りである」、黙示録 8:3-4）。
    - 詩篇 141 篇 2 節は祈りと香を結びつけており、イエスの仲介（ヨハネによる福音書 16 章 23-24 節）によってそれがさらに強調されている。
- クレンジング：
    - イエスの血は天の聖所（ヘブライ人への手紙 9:23-24）と信者の良心を清めます（ヘブライ人への手紙 9:14、第一ヨハネ 1:7、「御子イエスの血は、私たちをすべての罪から清めます」）。これはヨム・キプールの一時的な清め（レビ記 16:16-19）を凌駕するものです。
- 告解と罪の移転：
    - イエスは人類の罪を負い（イザヤ書 53:6、ペトロの手紙一 2:24）、贖罪の山羊の役割を果たされた（レビ記 16:21）。信者の告白は、イエスの執り成しを通して聞き届けられる（ヨハネの手紙一 1:9）。
- 休息と苦難：
    - イエスの完成された業は永遠の安息を与え（ヘブライ人への手紙 4:9-10、「神の民のための安息日」、マタイによる福音書 11:28、「わたしのところに来なさい…そうすれば、わたしはあなたがたを休ませてあげます」）、ヨム・キプールの年間の安息（レビ記 16:31）を凌駕する。

- 和解：
  - イエスの血は贖罪であり（ローマ 3:25、贖罪所と関連）、人類を神と和解させるものである（コロサイ 1:20、ローマ 5:10-11）。彼の働きはヨム・キプールの和解を普遍化する（第一ヨハネ 2:2）。
- 神へのアクセス：
  - イエスは、ヨム・キプールの入場制限（レビ記 16:2）とは異なり、神の臨在への直接的な道を開いてくださいます（ヘブライ人への手紙 10:19-22、「イエスの血によって聖所に入る確信」）。
- 法人および個人への適用範囲：
  - イエスの贖罪はすべての人（テモテへの手紙第一 2:5-6）と個人（ヨハネによる福音書 3:16）を対象としており、ヨム・キプールの二重の目的（レビ記 16:17）を満たしている。
- キャンプの外での荒野と苦難：
  - イエスが「門の外」で十字架につけられたこと（ヘブライ人への手紙 13:12、ヨハネによる福音書 19:17）は、贖罪の山羊の追放（レビ記 16:22）と類似している。

### 3. キリストの体としてのヴェールの引き裂き

イエスの死に際して神殿の幕が裂けたこと（マタイ 27:50-51、マルコ 15:37-38、ルカ 23:45-46）は神の行為であり、ヘブライ 10:20 ではイエスの体（「幕を通して、すなわち、その肉体を通して」）として言及されている。

- 神への道：幕が引き裂かれることで罪の障壁が取り除かれ、神の臨在への「新しい生きた道」が開かれる（ヘブライ人への手紙 10:19-20）。これは、大祭司だけが幕の後ろに入ることができたヨム・キプールの制限されたアクセスを実現するものである（レビ記 16:2）。
- ヘブライ人への手紙 9 章 8 節の成就：ヘブライ人への手紙 9 章 8 節には、「最初の幕屋が立っている間は、聖所への道はまだ開かれていない」とあり、これは古い契約の限界を示しています。幕が裂けることは、これらの障壁の終わりを意味します。イエスの犠牲によって、地上の幕屋は不要になったからです（ヘブライ人への手紙 8 章 13 節、9 章 11-12 節）。
- イエスの体：十字架上のイエスの壊れた体（ヨハネ 19:34、ヘブライ 10:5-10）は、神への直接の入り口となる手段であり、幕による隔たりを取り除いたものです（ヘブライ 10:22）。

- 神の主導：マタイによる福音書 27 章 51 節にあるように、「上から下まで」裂けることは、人間の努力ではなく神の行為を示唆しており、イエスの完成された働き（ヨハネによる福音書 19 章 30 節、「すべては終わった」と一致している。

#### 4. ヨハネによる福音書 14 章 6 節における「道」としてのイエス

イエスが弟子たちに語った言葉「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない」（ヨハネ 14:6）は、イエスの唯一の役割を明確に示している。

- 道：イエスは父なる神への唯一の道であり、仲介者としての役割を果たされました（テモテへの手紙第一 2:5、「神と人との間の仲介者はただ一人、人であるキリスト・イエスです」。イエスの犠牲と祭司職は、ヨム・キプールの大祭司をも凌駕する、神への道を開くものです（レビ記 16:2）。
- 真実：彼は神の啓示を体現し（ヨハネ 1:14、17:17）、律法を成就した（マタイ 5:17）。
- 命：彼は永遠の命を与えてくださる（ヨハネ 10:10、11:25、ローマ 6:23）。
- 幕との関連：引き裂かれた幕、すなわちキリストの体（ヘブライ人への手紙 10 章 20 節）は、「新しい生きた道」であり、ヨハネによる福音書 14 章 6 節の「道」と直接的に一致します。キリストの死は父なる神への道を開き、キリストの主張を成就しました。
- ヨム・キプールとの関連：イエスは「道」として、大祭司の一時的な仲介を、ご自身の永遠の祭司職に置き換えます（ヘブライ人への手紙 7 章 25 節）。

#### 5. メルキゼデクの祭司職とパンとぶどう酒

創世記 14 章 18-20 節で紹介され、ヘブライ人への手紙 7 章 1-17 節で詳述されているメルキゼデクは、イエスの祭司職を予型的に示している。

- 永遠の祭司職：メルキゼデクは「父も母も系図もなく、日の初めも命の終わりもない」（ヘブライ人への手紙 7:3）方であり、永遠の祭司職を持つイエスに似ています（ヘブライ人への手紙 7:24）。
- 王と祭司：サレムの王であり、いと高き神の祭司として（創世記 14:18、ヘブライ人への手紙 7:1）、彼はイエスが果たした役割を兼ねている（ゼカリヤ書 6:13、「彼は王の栄誉を身にまとい、王座に座って統治する」）。

- パンとぶどう酒：メルキゼデクは「パンとぶどう酒を持って来た」（創世記 14:18）。これは、ヨム・キプールの血のいけにえとは異なる、アブラムとの交わりや祝福を表す祭司の行為である。これは、イエスの体（パン）と血（ぶどう酒）によって新しい契約が確立される主の晩餐を予示している（マタイ 26:26-28、コリント第一 11:24-25）。
- 優越性：アブラハムの十分の一献金によって示されたメルキゼデクの偉大さ（ヘブライ人への手紙 7:4-10）は、彼の祭司職をレビ人の祭司職よりも優位なものとし（ヘブライ人への手紙 7:11）、イエスの完全な祭司職（ヘブライ人への手紙 7:17、「あなたはメルキゼデクの位に倣って、永遠の祭司である」）を予示するものである。
- ヨム・キプールとの関連：ヨム・キプールのレビ族の大祭司は血を捧げましたが（レビ記 16:14-15）、パンとぶどう酒を用いたメルキゼデクの祭司職は、より高次の秩序を示しています。イエスはメルキゼデクの位にあって、ご自身の血によってヨム・キプールの贖罪を成就し（ヘブライ人への手紙 9:12）、パンとぶどう酒による聖餐を確立し（コリント人への第一の手紙 11:24-25）、ご自身の祭司職を両方の儀式に結びつけました。
- 聖餐との関連：メルキゼデクのパンとぶどう酒（創世記 14:18）は聖餐の要素を直接予示しており、新しい契約を仲介する永遠の祭司としてのイエスの役割を強調している（ヘブライ人への手紙 8:6）。
- 「道」とのつながり：イエスは「道」（ヨハネ 14:6）として、メルキゼデクの祭司職を通して、父なる神への道としてご自身（体と血、パンとぶどう酒）を捧げられました（ヘブライ 10:20）。

## 6. 信者の身体は神殿である

信者は、個人としても集団としても、聖霊の宿る神殿である。

- コリント人への手紙第一 6 章 19-20 節：「あなたがたの体は、あなたがたのうちに宿る聖霊の宮です。あなたがたは代価を払って買い取られたのですから、あなたがたの体をもって神に栄光を帰しなさい。」
- コリント人への手紙第一 3 章 16-17 節：「あなたがたは神の神殿であり、…神の霊があなたがたのうちに宿っているのです。」
- エペソ人への手紙 2 章 21-22 節：教会は「聖なる神殿…御霊によって神が住まわれる場所」です。
- コリント人への第二の手紙 6:16：「私たちは生ける神の神殿です」（レビ記 26:12 参照）。

ヨム・キプールとの関連性：

- ヨム・キプールは、神の臨在のために幕屋を清めました（レビ記 16:16）。イエスの犠牲は信者を清め（ヘブライ人への手紙 9:14）、彼らを聖霊が宿る神殿とし（コリント人への第一の手紙 6:19）、神が民の中に住まわれるという御旨を成就します（出エジプト記 25:22）。

ヴェールとの繋がり：

- 裂かれた幕（ヘブライ人への手紙 10:20）は、聖霊の内住を可能にし、信者を神殿へと変える（コリント人への第二の手紙 6:16）。

「道」とのつながり：

- イエスは「道」（ヨハネ 14:6）として、父なる神への道を提供することによって信者を神殿とし、その道を通して聖霊が宿る（ヨハネ 14:16-17）。

メルキゼデクとのつながり：

- イエスのメルキゼデクの祭司職（ヘブライ人への手紙 7:17）は、信者を神殿として、イエスの血によって清めます（ヘブライ人への手紙 9:14）。聖餐のパンとぶどう酒はこの祭司職を思い起こさせます（創世記 14:18）。

## 7. 聖霊の役割と伝達

聖霊は信仰、悔い改め、洗礼を通して授けられ、神への接近と神との交わりを可能にする。

- 聖霊へのアクセス：
  - 使徒行伝 2 章 38 節：「悔い改めてバプテスマを受けなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けるでしょう。」
  - エペソ人への手紙 1 章 13-14 節：信者は信仰によって「約束された聖霊によって印を押される」。
  - ガラテヤ人への手紙 3 章 2 節：聖霊は「信仰をもって聞くことによって」受けられる。
  - ローマ人への手紙 8 章 9 節：信者は皆、御霊を受けており、それによって彼らは神殿となる（コリント人への第一の手紙 6 章 19 節）。
- コミュニケーション：

- 教え：ヨハネによる福音書 14 章 26 節、「彼はあなた方にすべてのことを教えます。」
- 指針：ヨハネによる福音書 16 章 13 節「彼はあなた方をすべての真理へと導いてくれるでしょう。」
- 執り成し：ローマ人への手紙 8 章 26 節、「御霊が私たちのために執り成してくださいませ。」
- 夢、幻、啓示：使徒行伝 2 章 17-18 節（ヨエル書 2 章 28-29 節参照）には、「あなたがたの若者は幻を見、あなたがたの老人は夢を見るであろう」とあります。例としては、ペテロの幻（使徒行伝 10 章 9-16 節）、パウロのマケドニアでの幻（使徒行伝 16 章 9 節）、ヨハネの啓示（ヨハネの黙示録 1 章 10-11 節）などが挙げられます。

• 神への適切なアクセス方法：

- 聖霊は、子としての立場（ローマ 8:15-16、「私たちは『アバ、父よ』と叫びます」）、祈り（ローマ 8:26）、礼拝（ヨハネ 4:23-24）を通して、神への接近を容易にします。夢や幻は、神の御心を示すことによって、神への接近をさらに強めます（使徒 10:19）。
- エペソ人への手紙 2 章 18 節：「キリストを通して、私たちは共に一つの御霊によって父なる神に近づくことができます。」

ヨム・キプールとの関連性：

- ヨム・キプールの儀式は聖霊の内住をもたらすものではありませんでした（ヘブライ人への手紙 9:9-10）。イエスの働きは、聖霊の臨在を可能にすることによって、このことを成就しました（エゼキエル書 36:27）。

ヴェールとの繋がり：

- 幕が引き裂かれることによって（ヘブライ人への手紙 10 章 20 節）、道が開かれ（ヘブライ人への手紙 10 章 19 節）、ヘブライ人への手紙 9 章 8 節の障壁が取り除かれ、信仰、悔い改め、そしてバプテスマを通して聖霊が内住するようになる（使徒言行録 2 章 38 節）。夢、幻、啓示を含む聖霊の働きは、この道が開かれることから生じる。

「道」とのつながり：

- イエスは「道」（ヨハネ 14:6）であり、聖霊が送られる仲介者（ヨハネ 16:7）であり、信者をその真理へと導く（ヨハネ 16:13）。

メルキゼデクとのつながり：

- イエスのメルキゼデクの祭司職（ヘブライ人への手紙 7:17）は贖罪を行い（ヘブライ人への手紙 9:12）、聖霊の内住を可能にし、神の意志を伝える（使徒言行録 2:17-18）。

## 8. 洗礼は一度限りの通過儀礼である

洗礼は、信者を新しい契約へと導く、一度限りの儀式である。

- 使徒行伝 2 章 38 節：「悔い改めてバプテスマを受けなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けられるでしょう。」
- ローマ人への手紙 6 章 3-4 節：キリストの死と復活と結びついている。
- エペソ人への手紙 4 章 5 節：「バプテスマは一つです。」
- 使徒行伝 19 章 4-6 節：しばしば聖霊の受容と関連付けられる。
- 洗礼は信者をイエスの死、すなわち裂かれた幕（ローマ 6:3、ヘブライ 10:20）と結びつけ、「道」（ヨハネ 14:6）へと導き、聖霊（使徒 2:38）を与え、聖霊は交わり（使徒 2:17-18）をもたらします。聖霊の働きは洗礼後も続きます（ガラテヤ 5:16）。

ヨム・キプールとの関連性：

- 洗礼は、イエスの犠牲との一致を通して、ヨム・キプールの清めの儀式を成就する（レビ記 16:30、ローマ人への手紙 6:3-4）。

メルキゼデクとのつながり：

- 洗礼は、イエスのメルキゼデクの祭司職によって媒介される新しい契約への加入を反映しており（ヘブライ人への手紙 8:6）、それは聖餐のパンとぶどう酒によって象徴されている（創世記 14:18）。

## 9. 聖餐式とその役割

イエスによって制定された聖餐式（マタイによる福音書 26:26-28、コリントの信徒への手紙一 11:23-25）は、イエスの体と血を記念するものです。

- パン：「これはあなたがたのためのわたしの体です」（コリント人への手紙第一 11:24）、裂かれた幕（ヘブライ人への手紙 10:20）。

- 杯：「この杯は、わたしの血による新しい契約です」（コリント人への手紙第一 11:25）、贖罪の座（ローマ人への手紙 3:25）を成就する。
- 目的：イエスの死を記念し（コリントの信徒への手紙一 11:24-25）、それを宣べ伝え（コリントの信徒への手紙一 11:26）、一致を育み（コリントの信徒への手紙一 10:16-17）、自己吟味を促す（コリントの信徒への手紙一 11:28）。

ヨム・キプールとの関連性：

- 聖餐式は、イエスが贖罪の日（ヨム・キプール）のいけにえ（ヘブライ人への手紙 9:12）、贖罪の山羊（ペトロの手紙一 2:24）、そして贖罪の座（ローマ人への手紙 3:25）を成就されたことを祝うものです。聖餐式中の祈りは香のように立ち昇り（黙示録 8:3-4）、レビ記 16:12-13 の成就となります。

ヴェールとの繋がり：

- パンはイエスの体を表し、裂かれた幕（コリント人への手紙第一 11:24、ヘブライ人への手紙 10:20）は、道を開くこと（ヘブライ人への手紙 10:19）を表しています。

「道」とのつながり：

- 聖餐式は、イエスが「道」（ヨハネ 14:6）であり、その犠牲を通して父なる神に至る道（コリント第一 11:26）であることを宣言する。

メルキゼデクとのつながり：

- メルキゼデクのパンとぶどう酒（創世記 14:18）は聖餐の要素（マタイ 26:26-28）を予示しており、イエスのメルキゼデクの祭司職（ヘブライ 7:17）を新しい契約（第一コリント 11:25）に結びつけている。

聖霊とのつながり：

- 聖餐式は、信者が聖霊が交わる神殿（コリント人への手紙第一 6:19）であるという意識を新たにしますが（使徒言行録 2:17-18）、聖霊を与えるものではありません。聖霊は信仰、悔い改め、洗礼を通して与えられるものです（使徒言行録 2:38）。

## 10. 聖餐式でヨム・キプールを祝う

聖餐式を通してヨム・キプールの成就を祝うことは、すべてのテーマを統合するものである。

• 準備：

- 悔い改めて自分自身を吟味しなさい（コリント人への手紙第一 11:28）。これはヨム・キプールの苦難（レビ記 16:29）を彷彿とさせる。
- イエスの贖罪（ヘブライ人への手紙 9 章 12 節）について深く考え、ヨム・キプールの血（レビ記 16 章 14-15 節）が成就したことを思い起こしましょう。

• 聖書朗読：

- レビ記 16 章：ヨム・キプールの儀式。
- 創世記 14:18-20: メルキゼデクのパンとぶどう酒。
- マタイによる福音書 27:50-51: 幕が裂ける。
- ヘブライ人への手紙 7:1-17: メルキゼデクの祭司職。
- ヘブライ人への手紙 9:1-14、9:8: 旧約聖書の限界。
- ヘブライ人への手紙 10:19-22: 裂けた幕とアクセス。
- ヨハネによる福音書 14 章 6 節：イエスは「道」である。
- 使徒行伝 2:17-18: 聖霊の働き。
- マタイによる福音書 26 章 26-28 節、コリントの信徒への手紙一 11 章 23-25 節：聖餐式の制定。

• 祈りを香として：

- 感謝、告白、執り成しの祈りを捧げ（黙示録 5:8、8:3-4）、ヨム・キプールの香を焚くこと（レビ記 16:12-13）を思い起こしましょう。夢、幻、啓示などを通して、聖霊の導きを求めましょう（使徒言行録 2:17-18、ヨハネによる福音書 16:13）。

• 聖餐式への参加：

- パン：イエスの体、裂かれた幕（コリント人への手紙第一 11:24、ヘブライ人への手紙 10:20）、「道」（ヨハネによる福音書 14:6）、メルキゼデクのパン（創世記 14:18）を思い起こしながら食べましょう。罪を負ってくださったことに感謝しましょう（ペトロの手紙一 2:24）。

- 杯：主の血、新しい契約（コリント人への手紙第一 11:25、ローマ人への手紙 3:25）、そしてメルキゼデクのぶどう酒（創世記 14:18）を祝して飲みましょう。永遠の贖いのために主を賛美しましょう（ヘブライ人への手紙 9:12）。
  - 神殿となること（コリント人への手紙第一 6:19）、そしてキリストの犠牲によって清められること（ヘブライ人への手紙 9:14）について瞑想しましょう。
- 宣言：
    - イエスの死（コリント人への手紙第一 11:26）、裂かれた幕、メルキゼデクとしての祭司職（ヘブライ人への手紙 7:17）、そして「道」としてのイエスの役割（ヨハネによる福音書 14:6）を宣べ伝え、ヨム・キプールの贖罪を成就した（ヘブライ人への手紙 10:10）。
- 福音の呼びかけ：
    - 使徒行伝 2 章 38 節、ヨハネによる福音書 14 章 6 節、ローマ人への手紙 10 章 9 節を分かち合い、未信者を信仰、悔い改め、洗礼へと招き、聖霊を受け（使徒行伝 2 章 38 節）、そして「道」（ヨハネによる福音書 14 章 6 節）に入るように促しましょう。
- コミュニティと礼拝：
    - 信者たちと聖餐を分かち合い、キリストの体としての結束を強調しましょう（コリント人への手紙第一 10:17、エフェソ人への手紙 2:21-22）。ヨム・キプールのテーマに関連付けながら、賛美歌を歌ったり、詩篇 22 篇、イザヤ書 53 篇、または詩篇 141 篇 2 節を朗読したりしましょう。
- 聖性への献身：
    - 神殿として（コリント第一 6:19）、神を栄光に輝かせることに専念し（コリント第一 6:20）、聖霊に導かれて（ローマ 8:14）、聖霊の働きかけを含めて（使徒 2:17-18）、自らの人生を「生きた供え物」として捧げなさい（ローマ 12:1）。

メルキゼデクとのつながり：

- 聖餐式におけるパンとぶどう酒は、メルキゼデクの捧げ物（創世記 14:18）を想起させ、イエスの祭司職（ヘブライ人への手紙 7:17）と新しい契約（コリント人への第一の手紙 11:25）を強調するものである。

## 11. ベールが引き裂かれたことの意味

イエスの体（ヘブライ人への手紙 10 章 20 節）として幕が引き裂かれることは、ヨム・キプールの諸要素全体を通して、神との交わりと神への接近に影響を与える。

### 1. 大祭司とメルキゼデク神権：

- ヨム・キプール：大祭司は幕の後ろに入った（レビ記 16:2）。
- 幕の引き裂き：イエスの死は幕を引き裂き（ヘブライ人への手紙 10:20）、昇天はメルキゼデクの祭司として天に入られた（ヘブライ人への手紙 9:24、ヘブライ人への手紙 7:17）。
- 影響：聖餐式は、キリストの体、裂かれた幕（コリント人への手紙第一 11:24）、そして永遠の祭司職を祝い、私たちに聖餐への道を開く（ヘブライ人への手紙 7:25）。

### 2. 犠牲者／スケープゴート：

- ヨム・キプール：血は一時的に罪を贖った（レビ記 16:15-22）。
- 幕の引き裂き：イエスの体は永遠に罪を贖う（ヘブライ人への手紙 10:20、9:26）。
- 影響：聖餐のパンと杯はこの犠牲を宣言する（コリントの信徒への手紙一 11:24-26）。

### 3. 祈りとしての香：

- ヨム・キプール：香は祭司を守った（レビ記 16:12-13）。
- 幕が引き裂かれる：信者の祈りはイエスを通して天に届く（ヘブライ人への手紙 10 章 22 節、ヨハネの黙示録 8 章 3-4 節）。
- 影響：聖餐式には祈りが香として含まれており（詩篇 141:2）、これはアクセスのしやすさを反映している。

### 4. 信者は神殿である：

- ヨム・キプール：幕屋は神の住まいであった（レビ記 16:16）。
- 幕の引き裂き：イエスの犠牲は信者を神殿にする（コリント人への手紙第一 6:19、ヘブライ人への手紙 9:14）。
- 影響：聖餐式はこのアイデンティティを強化する（コリントの信徒への手紙一 10:16）。

### 5. 聖霊へのアクセス：

- ヨム・キプール：聖霊の宿りがない（ヘブライ人への手紙 9:9-10）。
- 幕の引き裂き：イエスの死は、贖いの業の一部であり、信仰、悔い改め、洗礼を通して聖霊が宿ることを可能にする（使徒 2:38、エペソ 1:13）。聖霊は、夢、幻、啓示などを通して語りかける（使徒 2:17-18）。
- 影響：聖餐式は、教会が神殿であるという認識を新たにしますが（コリント人への手紙第一 6:19）、聖霊は信仰、悔い改め、洗礼を通して受け取られるのであって、聖餐式や幕が引き裂かれることだけによって受け取られるわけではありません（ガラテヤ人への手紙 3:2）。

#### 6. 浄化と和解：

- ヨム・キプール：一時的に血が清められる（レビ記 16:30）。
- 幕の引き裂き：イエスの血は永遠に清めます（ヘブライ人への手紙 9:14、ローマ人への手紙 5:10）。
- 影響：聖餐の杯はこのことを祝う（コリントの信徒への手紙一 10:16）。

#### 7. 休息と聖性：

- ヨム・キプール：イスラエルは休息した（レビ記 16:29）。
- 幕の引き裂き：イエスは安息を与え（ヘブライ人への手紙 4:9-10）、聖さを求めている（ヘブライ人への手紙 10:22）。
- 影響：聖餐式には自己吟味が必要である（コリントの信徒への手紙一 11:28）。

#### 「道」とのつながり：

- 引き裂かれた幕は「新しい生きた道」（ヘブライ人への手紙 10:20）、すなわちイエスご自身（ヨハネによる福音書 14:6）、父なる神への道である。

#### メルキゼデクとのつながり：

- 引き裂かれた幕、すなわちイエスの体は、イエスのメルキゼデクの祭司職（ヘブライ人への手紙 7章 17節）と一致しており、聖餐のパンとぶどう酒はそれを象徴している（創世記 14章 18節）。

## 12. 神学的統合

幕が引き裂かれること（ヘブライ人への手紙 10:20）、イエスが「道」であること（ヨハネによる福音書 14:6）、そしてイエスのメルキゼデクの祭司職（ヘブライ人への手紙 7:17）は、ヨム・キプール（レビ記 16 章、ヘブライ人への手紙 9:8）を成就する。

- イエスは「道」である。父なる神への唯一の道であり、その引き裂かれた体（ヨハネ 14:6、ヘブライ 10:20）と永遠の祭司職（ヘブライ 7:25）に体现されている。
- メルキゼデクの祭司職：イエスの祭司職と聖餐のパンとぶどう酒を予示し（創世記 14:18、ヘブライ人への手紙 7:3）、ヨム・キプールのレビ族の秩序を凌駕する（ヘブライ人への手紙 7:11）。
- 幕の引き裂き：神への道を開く（ヘブライ人への手紙 10:19）、ヨム・キプールの制限された入場（レビ記 16:2）を成就する。
- 聖霊のコミュニケーション：信仰、悔い改め、洗礼によって可能になる（使徒行伝 2:38）。夢、幻、啓示（使徒行伝 2:17-18）を含み、「道」（ヨハネ 16:13）へと導く。
- 神への正しいアクセス方法：聖霊によって促進される「道」（エペソ 2:18、ヘブライ 10:22）を通して（ローマ 8:15）。
- 洗礼：一度限りの「道」への入門儀式（ローマ 6:3-4、エペソ 4:5）、聖霊の授与（使徒 2:38）。
- 聖餐式：裂けた幕、「道」、メルキゼデクの要素（コリントの信徒への手紙一 11:24-26、創世記 14:18）を祝い、神殿として再びアクセスできるようにします（コリントの信徒への手紙一 6:19）。
- 祈りとしての香：聖霊は祈りに力を与え（ローマ人への手紙 8 章 26 節）、ヨム・キプールの香の目的を果たす（ヨハネの黙示録 8 章 3-4 節）。
- 信者は神殿となる：イエスの犠牲によって信者は神殿となり（コリント人への手紙第一 6:19）、聖霊が宿る（エペソ人への手紙 2:22）。
- ヨム・キプールとの主な違い：
  - アクセス：普遍的（ヘブライ人への手紙 10:19）対制限的（レビ記 16:2）。
  - 永続性：永遠（ヘブライ人への手紙 10:10）対年間（レビ記 16:34）。
  - 場所：信者を神殿とする（コリント人への手紙第一 6:19）対物理的な幕屋。
  - 適用範囲：普遍的（第一ヨハネ 2:2）対イスラエル限定。

### 13. 結論

イエスが「道」であること（ヨハネ 14:6）、メルキゼデクの祭司職であること（ヘブライ 7:17）、幕が裂けたこと（ヘブライ 10:20）は、神の臨在への永遠の道を開くことによってヨム・キプール（レビ記 16 章）を成就します（ヘブライ 10:19）。メルキゼデクのパンとぶどう酒（創世記 14:18）は聖餐式を予示し、父なる神への道としてイエスの体と血を祝います（第一コリント 11:24-25）。信仰、悔い改め、洗礼によって受けられる聖霊（使徒 2:38）は、夢、幻、啓示を通して語りかけ（使徒 2:17-18）、信者を「道」へと導き（ヨハネ 16:13）、適切なアクセスを保証します（エペソ 2:18）。洗礼はこの道の始まりであり（ローマ 6:3-4）、聖餐式はそれを宣言し（第一コリント 11:26）、信者を神殿として新たにします（第一コリント 6:19）。聖餐式をもってヨム・キプールを祝うことは、これらの真理を一つに結びつけ、すべての人を信仰を通して「道」に従うよう招きます。